5. In no case shall the provisions of paragraph 3 be construed to permit a Contracting State to decline to supply information solely because the information is held by a bank, other financial institution, nominee or person acting in an agency or a fiduciary capacity or because it relates to ownership interests in a person."

Article 2

There shall be added a new paragraph 3A to the Protocol of 1999, written as follows;

"3A. With reference to paragraph 5 of Article 25 of the Agreement, a Contracting State may decline to supply information relating to confidential communications between attorneys, solicitors or other admitted legal representatives in their role as such and their clients to the extent that the communications are protected from disclosure under the domestic laws of that Contracting State."

Article 3

1. This Protocol shall be approved in accordance with the legal procedures of each of the Contracting States and shall enter into force on the thirtieth day after the date of exchange of diplomatic notes indicating such approval.

2. This Protocol shall be applicable on or after 1 January in the calendar year next following that in which the Protocol enters into force.

3. This Protocol shall remain in effect as long as the Agreement remains in force.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, duly authorised thereto by their respective Governments, have signed this Protocol.

DONE in duplicate at Putrajaya on this tenth day of February, 2010, in the English language.

For the Government of Japan:
堀江正彦

For the Government of Malaysia:
Awang Adek

告　　示

○法務省告示第五百五十九号

出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令（平成二年法務省令第十六号）の表の法別表第一の二の表の技能実習の項の下欄第一号イに掲げる活動の項の下欄第十一号ただし書の規定に基づき、平成二十二年五月二十八日法務省告示第二百五十八号の一部を次のように改正する。

平成二十二年十一月四日　　法務大臣　柳田　稔

第二号中「平成二十二年七月一日から平成二十三年一月十九日」を「平成二十三年一月十九日から三年を経過する日」に改める。

附　則

この告示は、平成二十三年一月十九日から施行する。

○法務省告示第五百六十号

出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令（平成二年法務省令第十六号）の表の法別表第一の二の表の技能実習の項の下欄第一号イに掲げる活動の項の下欄第十一号ただし書の規定に基づき、平成二十二年五月二十八日法務省告示第二百八十八号の一部を次のように改正する。

平成二十二年十一月四日　　法務大臣　柳田　稔

第二号中「平成二十二年七月一日から平成二十三年一月二十八日」を「平成二十三年一月二十八日から三年を経過する日」に改める。

附　則

この告示は、平成二十三年一月二十八日から施行する。

○法務省告示第五百六十一号

出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令（平成二年法務省令第十六号）の表の法別表第一の二の表の技能実習の項の下欄第一号ロに掲げる活動の項の下欄第二十九号の規定に基づき、平成二十二年十月八日法務省告示第五百二十一号の一部を次のように改正する。

平成二十二年十一月四日　　法務大臣　柳田　稔

第二号の表に次のように加える。

有限会社三晃商事	大阪府大阪市北区中崎一丁目五番二十八号	ホテル業務

○外務省告示第四百六十四号

1　平成二十二年二月十日にプトラジャヤで署名された所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府とマレイシア政府との間の協定を改正する議定書について、それぞれの国において国内法上の手続に従って承認されたことを通知する外交上の公文の交換が、平成二十二年十一月一日にプトラジャヤで行われた。よって、同議定書は、その第三条1の規定に従い、平成二十二年十二月一日に効力を生ずる。

2　協定（平成十一年条約第十六号）の題名の日本語文について、「マレイシア」を「マレーシア」に改める。

3　同協定及び同協定の不可分の一部を成す議定書並びにこれらに関連する平成十一年二月十九日付けの交換公文の日本語文について、「マレイシア」を「マレーシア」に、「クアラ・ランプール」を「クアラルンプール」に改める。

平成二十二年十一月四日

外務大臣　前原　誠司